



出雲医療看護専門学校

小・中・高校生から専門学校生、大学生まで、若い人たちの意見を特集するコーナー「ヤングこだま」欄です。今回は出雲医療看護専門学校の皆さんの作品です。学校、学級単位での投稿を募っています。投稿希望の学校は「ヤングこだま」係・電話085523305までご連絡ください。

## 学びの意欲わいた海外研修

看護学科

2年 松下 優

看護学科は2年次に海外研修があります。研修先のサンフランシスコ市立大学の授業は、米国の医療制度や看護教育、国民教育と疾病の関係、終末期医療とホスピタルなど多岐にわたりました。

その中で、患者に対して独立した立場で診断し、薬剤の処方を行い、開業もできるナースプラクティショナーという資格に興味を持ちました。看護の立場で行える医療は、医師不足からきた新しい制度ですが、もっと世界中に広がっていくと考えられました。

医療模擬実習は、ER(救命救急)の臨床現場を再現した内容で、アメリカの学生の演習レベルの高さに驚きました。私は三つのグループに分か

はこれから病院施設実習を通して、患者さんに対する観察力、判断力、医療スタッフとの連携などの技術を高めなければならぬと思っていました。



「楽しみになっていた文化交流では、「恋するフォーク」や「幸運のキー」など、いろいろな文化を紹介して行った自己紹介が通じたときのうれしさから、もっと「学びたい」と心に誓いました。

## 貴重な体験ができる交流会

言語聴覚士学科

1年 原 吉成

先般「失語症友の会」の方々と交流会を本校で開催しました。今回で3回目ですが、学生自らが企画、実施する形となりました。先生からお話をいただきました。

当日は多くの方々に参加いただきました。今回は三つのグループに分か

せなら手をたたこう」を振り付きで歌いました。ノリが良くて一緒に盛り上がりました。また、勇

定試験に挑戦しました。学校のプログラムでは本来2年次に予定されていたものです。

この試験は、ME機器システムの安全工学に関する知識を検定する試験で、私が目指している臨床工学技士の業務内容に沿ったものです。受験対策として夏休みの間に講習をしていた

な中でも、参加者の方々の楽しそうな表情が目につきました。そんな不安もふっと消えてしまいました。交流会は私たち学生にとって、座学では学べない多くのことを体験できる貴重な機会です。さまざまな経験をさせていただけると感謝し、学生一人一人が高い意識を持ち、回を追うことに質の高いものになるように、これからも取り組んでいきたいと思

どのタイミングで問題を伝えればよいか、難易度が適切であるかなど、行っている最中にもいろいろと考えました。そんな

## 有意義だった検定試験挑戦

臨床工学技士学科

1年 石倉 正志

昨年9月に実施された第2種ME(メディカルエンジニア)技術実力検

いたので、夏休み返上で毎日出席しました。1年次の授業では習っていない内容もあったため、先

## 必ず夢かなえて地域に貢献

理学療法士学科

1年 太田 凜

入学してから1年がたち、学校生活にも慣れて、毎日充実した日々を送っています。私は高校時代に野球部のマネージャーをしていました。その時、部員が理学療法士の方に治療していただいた話を聞き、私もけがをした人を助けたいと思うようになりました。そして、今やっとなんかできるためのスタート地点に立つことができました。

入学する前から、理学療法士になるための勉強はとてきついと覚悟していました。いざ入学

た。

生方や先輩方に教えてもらいながらの学習でした。

受験後の感触では6割程度はできたように思いましたが、受験勉強を始めた当初は理解できなかった内容が多かったことを考えると、勉強した成果は出たと思います。

先般、合格の朗報をいただきました。臨床工学技士の業務内容を具体的に理解し、イメージできるようになったので、結果にかかわらず挑戦してよかったと思います。これからますますなとに挑戦し続けたいと思

すると、覚えることが予想以上に多くて驚きました。勉強はつらい時もありますが、いつも支えてくれる家族や同じ夢を持った友人、先生方のことを思うと頑張ることができそうです。そういった人たちのためにも、必ず理学療法士になって恩返ししたいと思います。

勉強をしていく中で、理学療法士はただリハビリをするだけではないことが分かり、素晴らしい職業なのだと思えることができました。今後は医療に関わり、地域に貢献し、活躍していきたいと思